

第 2 学年 2 組 図画工作科学習指導案

日時 令和 3 年 9 月 3 0 日 (木) 3 校時
 指導者 教諭 松尾博之
 場所 2 年 2 組教室

本授業のポイント

「ふしぎな生き物」というテーマで制作した焼き物を様々な場所においてタブレットで撮影し、その中から自分で選んだ 2 枚の写真を見せ、どちらの写真が気に入っているかをみんなに問います。児童らは造形要素を手掛かりに話し合い、解答を考えます。制作時には個別最適な学習、鑑賞の時間には協働的学びの場を設定しています。

1 題材名 ふしぎな生き物

2 題材の目標

- ・陶土の特性を理解し、不思議な生き物を想像して作る。(表現)
- ・タブレットで撮った写真を見せながら、造形要素に基づく説明ができる。(表現)
- ・造形要素をもとに、自分の考えを持つことができる。(鑑賞)

3. 題材の全体計画(全 6 時間 乾燥にかかる時間は別)

時	学習活動	評価の観点			1 人 1 台端末の活用	
		知技	思判表	主体的	★共働的な学び ◆個別最適な学び	キーワード
1 ~ 2	ふしぎな生き物につける飾り部分を作る	○	○		◆	
	ふしぎな生き物を作り上げる	○	○		◆	
3	屋内・屋外の様々な場所で、ふしぎな生き物を入れた写真を撮る。これが第 2 の作品となる。		○	○	★ ◆	
4	写真作品の中から 2 枚を選び、共有ドライブの中の各自のスライドファイルに入れる。	○				スライド 共有ドライブ
5 ~ 6 (本時)	鑑賞会をする。 5 / 6 例示課題 6 / 6 相互鑑賞		○	○	★	スライド 共有ドライブ

4. 本時の目標 「かんしょうおたからキーワード」を使って鑑賞活動を楽しむ

5. 本時の展開

学習活動	○教師の指導・支援 ★協働的な学び◆個別最適な学び
1. めあてを確認する	
めあて：「かんしょうおたからキーワード」をつかって、お気に入りのなぞをとこう	
<p>2. めあてにある「かんしょうおたからキーワード」の具体的内容（色・もの・けしき（おくゆき）・光と影）と、クイズの流れを出題から解答までを例題で確認する。</p> <p>3. クイズに挑戦する。</p> <p>出題者：「わたしのお気に入りの写真はどちらでしょう。」</p> <p>児童：「かんしょうおたからキーワード」を分析のよりどころにしながら、どちらの写真が出題者のお気に入りなのかを話し合いを通して推測する。</p> <p>4. 振り返りをする。</p> <p>5. 次時の活動を確認す。</p>	<p>○クイズの流れをスライドを使って説明する。</p> <p>○写真を撮影した時の留意点を振り返り、造形要素の具体的項目を確認するとともに、本時の鑑賞活動のキーワードも同じ造形要素であることを伝える。</p> <p>★4人グループを作り、その中の2人がタブレットを開く。1台のタブレットで出題者の1枚目の写真を、もう1台のタブレットで2枚目の写真を表示する。4人で2台のタブレットの写真を見比べながら、出題者はどちらの写真が気に入っているか造形要素をもとに話し合い見当をつける。話し合いを通し、造形要素を手掛かりに鑑賞するというスタイルを学ばせる。</p> <p>○造形要素に着目して取り組む鑑賞活動についての言及を促すようにする。</p> <p>○造形要素に触れた振り返りを出すことができた児童に関して、鑑賞が上手になってきたことを称賛し、次時の活動に対する意欲を喚起する。</p> <p>○次回は児童が自ら撮影した写真を使ってクイズを楽しむことを伝える。</p>
<p>評価基準</p> <p>造形要素に基づく考え方でクイズの解答を考えることができたか。（思・判・表）</p> <p>A：造形要素に基づく考え方でクイズの解答を考えることができた。</p> <p>B：造形要素に関してうまく言葉にできなくても、解答を考えることができる。</p> <p>→うまく判断ができていない児童に関しては、こちらから造形要素を提示しそれを足掛かりに考えてみるよう促す。</p>	

6. 成果と課題

【成果】

(1) 「タブレットを使つての授業」という観点からの成果

- ・鑑賞の対象としたものが、「ふしぎな生き物」という題材で制作させた焼き物の作品を、それが最も似合う場所に置いて写真に撮影させた二次的な作品を扱ったものだったので、タブレットを使う必然性があった。
- ・撮った写真をスライドに貼り付けて提出させることで、だれがどのような写真作品を作ったのかを、教師側が一括管理できた。
- ・各児童は、自身の焼き物の作品を、様々な場所に置いて撮影した写真の中から2枚を選びスライドに貼り付けた上で、「どちらがお気に入りの写真でしょう。」と問うクイズ形式の鑑賞に取り組んだ。スライド機能を使うことで、たくさんの写真の中から最終的に2枚選び出す作業が、鑑賞の視点に沿った形で効率よく比較検討することができた。
- ・出題する際に、グループに1台タブレットを用意させたことで7つのグループが同時進行で鑑賞活動を行うことができた。

(2) 図工の教科という観点からの成果

- ・鑑賞活動に当たり、作品を作る（写真を撮るという意味）際、および鑑賞する際に共通の鑑賞ポイント（色・もの・けしき・おくゆき・光と影）を提示・意識させたことで、児童一人一人が同じ観点で表現及び評価をすることができた。表現と鑑賞の一体化という意味で効果的な取り組みであったと考える。
- ・A表現の(1)アの造形遊びでは、中学年になると造形活動が材料に加え「場所」とのかわりが求められるが、場所の特徴を考えながら写真作品を作ることは、次のステージへの橋渡しになった。

【課題】

- ・事後研でも出たが、授業中タブレットを使う場面とそうでない場面（先生の話をお聞きするときや話し合うときなど）のけじめをきちんとつけさせる訓練をする。どうしてもタブレットの画面に目が行ったり、操作する手を止めることができなかつたりする児童がいた。
- ・スライド機能は利便性が高く、様々な教科や活動で取り扱う頻度が高くなる。なるべく早い段階から基本的なスキルを身につけさせたほうが良い。
- ・引き続きだが、タブレットの強みを生かした授業構成や学習内容、言い換えればペーパーでは代替しにくい授業改善を研究していく必要がある。
- ・クラウドの活用、個別最適な学び（児童自身による選択、方向性の修正、教師のアドバイス・・・）、協働的な学びの場の創造などなど。